

① 土砂災害とは

土砂災害は大雨や集中豪雨、地震などによって引き起こされる斜面災害です。土砂災害には急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)、土石流、地すべりの3種類があり、それぞれ特徴が異なります。土砂災害から身を守るためには、種類によって異なる災害の特徴を理解することが大切です。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)



大雨や集中豪雨、地震などの影響で地盤が緩み、斜面が突然崩れ落ちる災害で、崩れた土砂が斜面の2～3倍も離れた場所に届くこともあります。人家の近くで発生すると、逃げ遅れることも多く、死者の割合が高いことも、急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)の特徴です。

土石流



山腹や川底の石、土砂などが、長雨や大雨により、水と一緒に激しく流下する現象です。土石流は時速20～40kmとスピードが速く、周辺の木々や大きな岩を巻き込んで進むため、一瞬にして家や田畑を押し流してしまいます。

地すべり

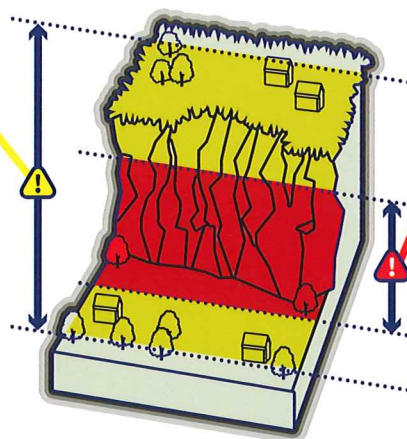


地下水の影響により、水を通しにくい地層の上の地面が、斜面の傾きにより下方向にゆっくりと滑り落ちる現象です。
※令和3年3月現在、山北町で地すべりの区域指定はありません。

土砂災害警戒区域

とは

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)や土石流が発生した場合に、住民等の生命や身体に危害が生ずると認められた区域で、土砂災害防止法に基づき県が調査・指定しています。



土砂災害特別警戒区域

とは

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)や土石流が発生した場合に、建築物の損壊や生命に著しい危害が生ずる恐れがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の移転等の勧告等が行われます。



昭和47.7災害

山北町では過去に土砂災害の被害にあっています。昭和47年7月の豪雨では、箒沢地区を中心に死者や行方不明者を出す大きな災害になりました。

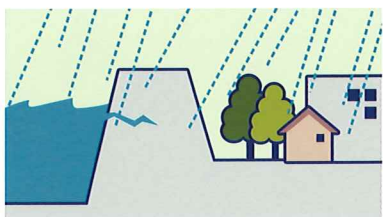
◀ 写真:山北町発行「47・7被災-山北町の記録-」より

② 洪水災害とは

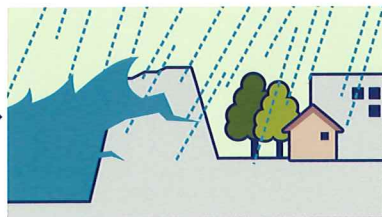
大雨や集中豪雨などが原因で、河川から増水・はん濫した水によって陸地が水没したり水浸しになる自然災害です。初夏の梅雨期、台風期などに生じやすく大きな被害をもたらします。

河川堤防から水があふれたり決壊して起こる「外水はん濫」、排水路などがあふれて起こる「内水はん濫」に分ける事が出来ます。

外水はん濫



大雨などにより堤防に水の圧力がかかります。



水の圧力に堤防が耐えきれなくなると、堤防の一部が崩れ始めます。



水が堤防の崩れた箇所から流れ出し、家や農地に水があふれます。

内水はん濫

大雨で川に排水しきれずに宅地や農地に水があふれるはん濫です。

宅地などに降った雨は、普段は水路などを通っていますが、川の水位が上がると排水がされず、水があふれます。

ふだんの状況



洪水時

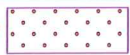


家屋倒壊等氾濫想定区域

氾濫流

河川堤防の決壊又は洪水氾濫流により、木造家屋の倒壊のおそれがある区域

裏面の地図で
ご確認ください



河岸侵食

洪水時の河岸侵食により、木造・非木造の家屋倒壊のおそれがある区域

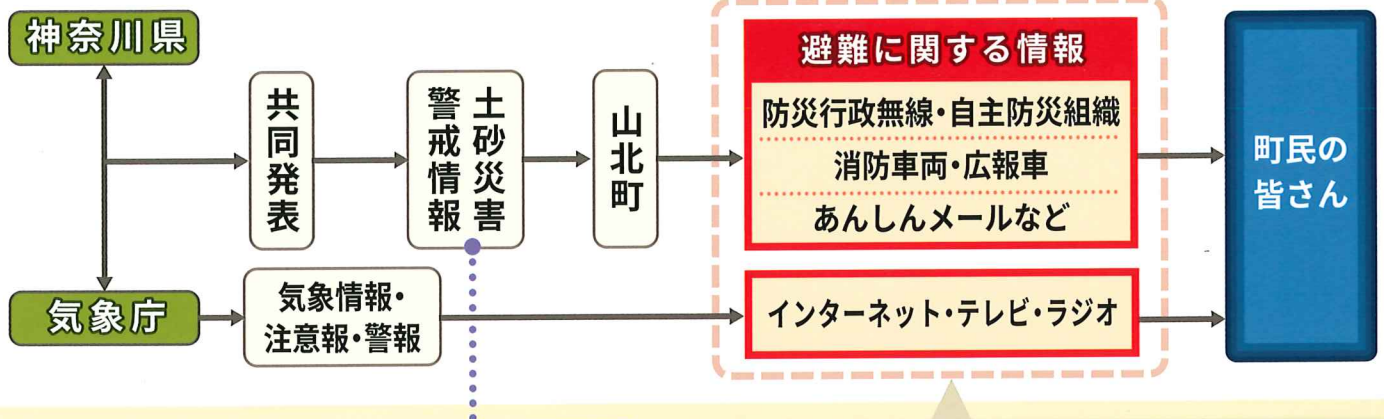
裏面の地図で
ご確認ください



③ 災害情報を入手するには

土砂災害は大雨や集中豪雨によって発生します。積極的に気象情報や土砂災害警戒情報等の防災情報を収集し、早めの避難を心掛けましょう。

情報の伝達経路 気象情報などの防災情報は下記の経路で伝達されます。



土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は大雨による土砂災害発生危険性が高まった時に、町の避難指示や住民の自主避難の参考となるように、神奈川県と気象庁が共同で発表する防災情報です。

気象情報



気象庁/横浜気象台
気象警報・注意報

<https://www.jma-net.go.jp/yokohama/index.html>

土砂災害情報



神奈川県
土砂災害情報ポータル

<https://dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/gis/index.html>



気象庁
土砂災害警戒情報
土砂災害警戒判定メッシュ

<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>

雨量・水位情報



神奈川県
雨量水位情報

https://www.pref.kanagawa.jp/sys/suibou/web_general/suibou_joho/



国土交通省
川の防災情報

<https://www.river.go.jp/83.html>

町の防災情報

t v k データ放送

- 1 チャンネルを「t v k」に合わせる。
- 2 リモコンの**Ⓞ** ボタンを押す。
- 3 リモコンの緑ボタンを押し「マイタウンページ」へ移動する。
- 4 「安全安心情報」から防災情報等を確認する。

山北町 あんしんメール

下記のアドレスにメールを送ると、災害や防犯情報を受け取ることができます。「山北町あんしんメール」に登録することができます。

宛先 **cfm@io.dataeast.jp**

件名 **t-yamakita**



QRコードからアドレス情報を入手することもできます。いざという時のためにも、積極的に登録してください。

災害用伝言ダイヤル



録音
したい

171 をプッシュ → 1 をプッシュ →

(XXXX) XX-XXXX



録音

1メッセージあたり
30秒以内

市外局番+相手方の電話番号



再生
したい

171 をプッシュ → 2 をプッシュ →

(XXXX) XX-XXXX



再生

忘れて「171」で
覚えよう！



【詳しい利用方法】 <https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>

④ 防災気象情報と警戒レベル

危険度分布のうす紫は警戒レベル4相当！
自ら避難の判断を！



気象庁HPから抜粋

Q & A

質問1 警戒レベルを用いた防災気象情報とは？

災害発生の危険度と、とるべき避難行動を、住民が直感的に理解するための情報です。

日本では毎年のように、大雨や台風などによる洪水や土砂災害、高潮などが発生し、多くの被害がでています。

平成30年7月豪雨では200名を超える死者・行方不明者が発生するなど、各地で甚大な被害が発生しました。

気象庁から注意報や警報、市町村から避難勧告や避難指示(緊急)など様々な情報が発信されましたが、受け手である住民に正しく理解されていたかなど、様々な課題がありました。

こうしたことを踏まえ、住民の皆さんが災害発生の危険度を直感的に理解し、的確に避難行動ができるようにするため、避難に関する情報や防災気象情報等の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いて伝えることとしました。(令和元年6月より)

質問2 どの警戒レベルが出たら、どう行動すればいいの？

「警戒レベル3」で危険な場所から高齢者等は避難、「警戒レベル4」で危険な場所から全員避難を。

警戒レベルは災害発生の危険度が高くなるほど数字が大きくなります。

各段階に応じた住民行動の最大のポイントは、「警戒レベル3」が発令されたら、高齢の方や障がいのある方など避難に時間のかかる方やその支援者の方は危険な場所から避難し、それ以外の人は避難の準備をすること。そして「警戒レベル4」が発令されたら、対象となる地域住民の方々は危険な場所から全員避難することです。



⑤ 日ごろからの準備が大切です

日ごろの生活～

警戒レベル 1～2

災害に関する適切な知識、災害から身を守るための手段、身の回りの整備や点検を日ごろから準備しましょう。

① 地域特性の確認

がけ、沢、川などからどれくらい離れているか、水が貯まりやすい場所はどこかなどをハザードマップで確認しましょう。

① 避難所・避難経路の確認

避難所、避難経路とその周辺の危険箇所を隣近所とともに確認しておきましょう。

① ペットの避難準備

災害のとき、大切なペットを守るために、日ごろからの準備をしましょう。

◎ペットの予防接種、寄生虫駆除を行い、健康な状態を確保する。

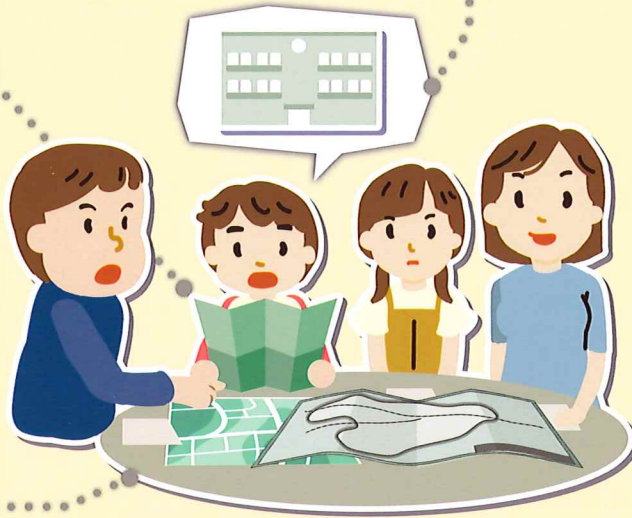
◎キャリーバックやケージに慣らしておく。

◎ペットフード、リード、トイレ用品を準備する。

※補助犬については、ペットとは別の扱いになります。

① 連絡手段の確保

普段から家族で防災をテーマに話しあい、災害が起こったときの避難所や避難経路、連絡方法を決めておきましょう。



Check

非常持ち出し品リスト (一例)

貴重品

品目	確認
● 現金(10円硬貨含む)	<input type="checkbox"/>
● 家、車のカギ	<input type="checkbox"/>
● 預金通帳	<input type="checkbox"/>
● 健康保険証、運転免許証	<input type="checkbox"/>
● パスポート、外国人登録証等	<input type="checkbox"/>

生活必需品

品目	確認
● 常備薬、お薬手帳	<input type="checkbox"/>
● スマホ・携帯電話、充電器	<input type="checkbox"/>
● 歯みがき、入歯手入れ具	<input type="checkbox"/>
● 下着類、靴下、タオル類	<input type="checkbox"/>
● 予備メガネ・コンタクト等	<input type="checkbox"/>

食糧

品目	確認
● 非常用食糧	<input type="checkbox"/>
● 飲料水(携行できる量)	<input type="checkbox"/>

避難生活用品等

品目	確認
● 携帯ラジオ(予備電池)	<input type="checkbox"/>
● 懐中電灯等(一人に一個)	<input type="checkbox"/>
● マスク、消毒用アルコール、体温計等	<input type="checkbox"/>
● トイレットペーパー	<input type="checkbox"/>
● 手袋、上履き、スリッパ	<input type="checkbox"/>
● ポリ袋(防水、荷物集約)	<input type="checkbox"/>
● ウエットティッシュ (身体を拭ける大きい物)	<input type="checkbox"/>
● 生理用品・紙おむつ等	<input type="checkbox"/>

⑥ 早めの避難を心掛けましょう

警戒レベル 3

警戒レベル4は、災害のおそれが高い段階です。

災害が発生する前に、自らの判断で避難することが重要です。

「今まで大丈夫だったから、今回も大丈夫」と考えず、防災気象情報等を確認し、警戒レベル4で避難を完了しましょう。

高齢者等の避難は、警戒レベル3段階から早めに開始しましょう。

警戒レベル 4

避難する前に

避難する前に、火元を確認し、ブレーカーを切り、最寄りの避難所を確認しましょう。

避難先として、安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。親戚や友人などに避難する旨を連絡しておきましょう。災害用伝言ダイヤルなどを利用しましょう。



あかるい時間に避難をしましょう

夜間の避難は視界が悪く危険を伴います。夜間に大雨が予想される場合は、あかるいうちの避難を心掛けましょう。

万が一、夜間に避難する場合は、懐中電灯やヘッドライトなどで足元を照らしたり、杖などで足元を確認しながら、慎重に行動しましょう。



避難ルート

なるべく、川やがけ治いを避けて避難しましょう。

避難ルートに川やがけがある場合は、早めの避難を心掛けましょう。



服装・行動人数

動きやすい服装で避難しましょう。二人以上の避難を心掛けましょう。やむを得ず水の中を移動するときは、長い棒などで足元の安全を確認しながら移動しましょう。



避難行動要支援者への避難の協力

お年寄りや障がいのある方、乳幼児、病気の人など、一人での避難が困難な方は、地域で声掛けして、協力し合って避難するようにしましょう。また、避難行動要支援者の方は、早めの避難が重要です。



⑦ 命を守る行動を!



警戒レベル5は、すでに災害が発生している、または発生してもおかしくない状態です。外に出ること自体が危険な状態のときは、今いる場所(屋内)で、より安全な場所(位置)に避難しましょう。気象情報や避難情報を収集し、命を守るため、緊急に安全確保をしましょう。

冠水時の歩ける水深限度

冠水時に歩ける水の深さは50cmが限度です。避難が遅れ浸水が始まった場合は無理せず近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。



自助・共助・公助

災害により避難を軽減するためには「自助、共助、公助」が重要であると言われています。中でも一番大切なのは「自分の身は自分で守る」、すなわち「自助」です。



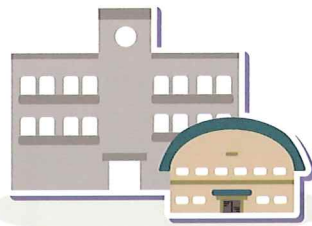
避難の基本は「立ち退き避難」

土砂災害や洪水などが発生する前に、安全な場所へ移動する「立ち退き避難」が避難の基本です。

屋外へ出るとかえって危険な場合や既に安全性の高い建物にいる場合は、「立ち退き避難」から「屋内安全確保」に切り替えましょう。

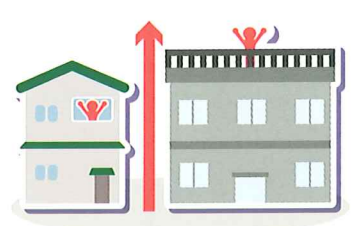
立ち退き避難(基本)

避難所などの安全な場所へ



屋内安全確保

自宅や丈夫な建物の上層階へ



垂直避難

夜間や急激な雨、自宅周辺で既に災害が発生し、避難所等への「立ち退き避難」がかえって危険と思われる場合は、最後の非常手段として、近くの頑丈な建物や自宅の2階等に避難し安全確保をする「垂直避難」で身の安全を守ってください。

万が一逃げ遅れてしまった場合でも、最後まであきらめずに最善をつくしましょう。

